

3. フィリピンの大家族 Family Reunion

隣人を愛し、家族を大切にするフィリピン人。年に一度、特にクリスマス前後や故郷の町のフィエスタ(お祭り)時期に同じ苗字の親戚が数十人から100人超集まってゲームをしたり食事をしたりすることで、親戚同士の懇親を深めるイベントが「ファミリーユニオン(family reunion)」です。予算やプランを立てるのは親戚内で比較的裕福、土地を持っている方。参加費(数百ペソ程度)を申込み時に支払い、半日から一日ほどのイベントです。母方、父方それぞれのファミリーユニオン、もしくは両方ともなど住んでいる場所との関係で利便性が良い方に参加するそうです。

同じ苗字の親戚と言っても一体どこまでの親戚が参加するのでしょうか？



Siblings 兄弟姉妹だけではなく、First cousin いとこ、Second cousin はとこ、Third cousin みいとこ(「はとこ」の「いとこ」)、中には fourth cousin, fifth cousin まで集まるケースもあるそうです。

(Cousin Chart <http://fh.familysearch.org/system/files/team/ait/images/blog/cousin-chart.jpg> 参照)

日本のお盆やお正月と同じような感じ？と思われるかもしれませんが、ちょっと違うようです。とにかくクレイジーに騒ぐのが大好きなフィリピン人、ファミリーユニオンもとにかく賑やかなのだとか。

1. 食べ物

クリスマスに Noche Buena(ノチェ ブエナ、スペイン語で「おやすみなさい」、「神聖な夜」)という年に一度のご馳走を食



べる習慣があり、Keso de Bola(ケソデボラ、赤くて丸いエダムチーズ)、Empanada(エンパナダ、スペイン発祥で挽肉や野菜を詰めたパイ)、メインディッシュには Kaldereta(カレデレータ、牛肉等の煮込み)、Hamon(ハモン、甘めのハム)、Lechon(レチオン、子豚の丸焼き)、Pancit(パンシット、焼きそばのような麺料理)は長寿を願って出されます。

2. 何を話すの？

住んでいる場所、仕事や学業、結婚や出産予定、ヘルスケア、選挙などセンシティブな話題も飛び交うそうです。



3. ゲーム

Tongits(トンギット、カードゲーム)や Sungka(スンカ)、スプーン競争や目隠しで三回まわってスイカ割りなど、単純なゲームが主体ですが盛り上がります。

4. 子供達のパフォーマンス

歌、ダンス、演劇など、年配者からリクエストされたら「マノポ(目上への敬意を表する挨拶、年配者の手を自分の額に当てる)」の精神があるので恥ずかしくてもやるのが当たり前。こうしてエンターテイメント精神が小さな頃から鍛えられるのですね。

5. カラオケ

カラオケは日本以上に人気。最近の POPS はもちろん、フランクシナトラの My Way が老若男女に今でも愛されています。

6. 連れていくの！？ ボーイフレンド&ガールフレンド

親戚からの矢継ぎ早な質問に答える自信があれば、連れていくそうです。真剣さが相手に伝わるとも言われています。

7. OOTD、当日の服装はカジュアルでいいの？

服の色を揃えたり、お揃いの T シャツを着たりしてチームに分かれてゲームします。アクティブに過ごすにはカジュアルが一番。

8. ギフト交換

Aguinaldo(アギナルド)と呼ばれ年齢も値段も関係なし、とにかく大家族に自分の存在を覚えておいてもらうためにも大切なギフト交換です。子供には少額のお金をあげたり、クリスマスにもらうお年玉のようなものです。



！実際にフィリピン人の友人知人に聞いてみました！

1, 40代、ミンダナオ島のミサミス出身、タギグ市在住

母方のファミリーリユニオンだけ参加、パンデミック前は毎年5月のフィエスタ時期にミンダナオで開催。一年前からプランされ数ヶ月前に主催者に参加費を送金。バランガイホールを借りて開催。パンデミック中は開催無し。2022年は12月クリスマスシーズンに開催予定。

2, 40代、ビコール地方出身、カビテ在住

パシッグに住む叔母が毎年主催、10家族ほどがシラン、カビテのレストハウスに集合。ランチを食べギフト交換。

3, 50代、メロマニラ在住

パンデミック前はクリスマスシーズンにマニラ在住母方の親戚が20人くらい我が家に集合。ランチからスタートし近況報告、子供達は別に遊んでいました。パンデミック以降は兄夫婦が自宅で開催。

ランチ、ピカピカ(つまみ)、ワインやビール。この二年間は開催がなかったのも、さらにこの集まりが貴重な機会となっています。

4, 50代、メトロマニラ在住

毎年クリスマスイブに母方、父方両方の親戚が約60人集合。義理の母や姉妹がプランを立て、ランチ、メリエンダ、ドリンク、ディナー、深夜まで盛り上がります。レチョンは必ず食べます！とても大切なイベントです。パンデミック以降、母方のファミリーリユニオンは母が亡くなったため中止。でも2021年12月にいとこの家に集まり少額の賞金ありのゲームをして楽しみました。父方のファミリーリユニオンでは、パンデミック前は毎年一月に開催、約100人が集結。年配者達がプランし、広い庭がある叔父の家で開催。ゲーム等は楽しいのですが Mass(お祈り、ミサ)をするので退屈だと子供達は敬遠していました。食事はケータリング。パンデミック中は Zoom での開催、私だけ参加。

他にも海外育ち(アメリカやカナダ等)のフィリピン人たちはファミリーリユニオンに参加したことがなく、結婚式があると親戚が大勢集まるのがファミリーリユニオンを兼ねていると話していました。

パンデミックを境にそれらの形態も、中身も見直されつつあるようですが、-to reunite, to reconnect. これはフィリピン人に限らず大切なことですね。 (E・T)

“A reunion should be filled with positive emotions, wherein you cultivate joy, interest, inspiration, serenity, gratitude, and curiosity, instead of being a critic.”

Romano Santos(フィリピン人ライターの記事 <https://www.vice.com/en/article/xgdvad/how-to-christmas-filipino-family-reunion-party-family> より引用)